

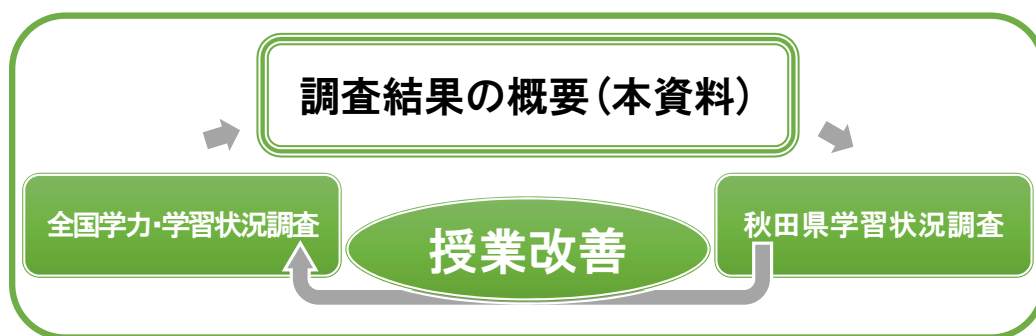
令和3年度全国学力・学習状況調査 秋田県 調査結果の概要

～調査結果から見られた成果と 課題改善に向けた取組のポイント～

本県ではこれまで「秋田県検証改善委員会」において全国学力・学習状況調査結果の結果を分析するとともに、授業改善の実践事例と併せて「学校改善支援プラン」として取りまとめ、各学校における授業改善の取組を支援してまいりました。

今年度は、教科調査及び質問紙調査の結果とそこから見られた課題に焦点化し、改善のポイントをまとめた資料として本資料「調査結果の概要」を作成するとともに、各学校の授業改善にいち早く役立てられるよう、11月に発行することとしました。

これまでの検証改善サイクルに本資料を加え、各学校における新しい検証改善サイクルの構築、更なる授業改善の取組の充実に御活用ください。



調査結果の概要①

国語

- ・ 小学校第6学年 国語
- ・ 中学校第3学年 国語
- ・ 検証改善委員からの提言 秋田大学大学院教育学研究科特別教授 阿部 昇 氏

調査結果の概要②

算数・数学

- ・ 小学校第6学年 算数
- ・ 中学校第3学年 数学
- ・ 検証改善委員長からの提言 秋田大学教育文化学部教授 佐藤 学 氏

調査結果の概要③

質問紙調査

- ・ 質問紙調査の結果から見られた成果
- ・ ICTを活用した学習状況
- ・ 授業改善に向けた取組の視点
- ・ 検証改善委員長からの提言 秋田大学教育文化学部教授 佐藤 学 氏

小学校第6学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容				問題形式		
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等					
		(1)言葉の特徴や使い方に關する事項	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと	選択式	短答式	記述式
本県	71	75.1	82.6	69.4	51.8	77.2	76.9	48.3
全国	64.7	(+6.8)	(+4.8)	(+8.7)	(+4.6)	(+5.5)	(+6.3)	(+8.1)

概要

- 平均正答率は、全ての問題で全国平均を上回っています。
- 「B書くこと」及び問題形式「記述式」の平均正答率は8ポイント以上、全国平均を上回っています。

小学校第6学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1ー]

○ 成 果

目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題の正答率は、83.2%（全国比+5.7）でした。

1 上野さんの学級では、興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介しようことになりました。上野さんは、津田梅子について調べ、メモをもとに資料を画面に映しながらスピーチの練習をしています。次は、上野さんの「スピーチメモ」、「スピーチ」、「資料①」から「資料④」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【スピーチメモ】 【スピーチ】 は略。実際の調査問題を参照してください。

- 上野さんは、「スピーチメモ」を作り、「スピーチ」の練習をしています。業績を明確に伝えるために、上野さんはどのような構成で話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- ① 事実と感想とを区別できるように、「中」で業績、「終わり」で自分の感想を話している。
- 2 感想を印象づけられるように、「はじめ」と「終わり」で自分の感想を話している。
- 3 二つの事実を区別できるように、「はじめ」で一つの業績、「中」でもう一つの業績を話している。
- 4 事実と感想とを関連づけられるように、「中」で二つの業績と自分の感想の両方を話している。

※【文章の下書き】は略。実際の調査問題を参照してください。

【西田さんの話】
（遊具置き場のそうじ担当）



西田さん

○「そうじたん当の人などがかたづけられよ」という考えに反対する意見と、その理由を書くと。

○【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書くこと。
六十字以上、百字以内で書くこと。

○ 成果

目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題の正答率は、69.0%（全国比+12.4）でした。

◇設問ごとの顕著な例 [3三(2)イ]

※【文章の下書き】は略。実際の調査問題を参照してください。

三 丸山さんは、【文章の下書き】を読み返しています。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(2) 丸山さんは、——部イとオの文について、言葉の使い方を確認しています

次のイの文について、~~~~部「残されています」の主語として適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています

1 みんなが
2 使っていた
3 ③ 一輪車が
4 かたづけられずに

○ 成果

文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率は、75.7%（全国比+ 8.7）でした。

◇設問ごとの顕著な例 [2三]

▲ 課 題

目的に応じ、文章と図とを結び付けて必要な情報を見付ける問題の正答率は41.9%(全国比+ 7.5)でした。誤答のうち、必要な情報を文章からは得られているが図からは得られていない児童の割合は34.5%であり、図から必要な情報を見付けたり、必要な情報同士を結び付けたりすることに課題が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

文章と図表などとを結び付けて必要な情報を見付けるためには、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしたり、断片的な情報が互いに内容を補完し合っている関係にあることを捉えたりして読むよう指導する必要があります。例えば、ICT機器やデジタル教科書を活用するなどして、文章中の言葉と図表中の言葉を線で結び付けて両者の関係を視覚的に捉えさせたり、目的に応じて取り出した複数の情報を結び付け、まとまった文章として表現させたりする学習活動を行うことが考えられます。

2 相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【資料】は略。実際の調査問題を参照してください。

三 相川さんは、【資料】の——部を読み、面ファスナーのくつつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ヒントになったことと、面ファスナーのくつつく仕組みが分かるように書くこと。
- 【資料】の中の文章と——の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。



◇設問ごとの顕著な例 [2四]

▲ 課 題

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題の正答率は34.0%(全国比+ 4.3)でした。誤答のうち、必要な二つの情報のうちどちらか一つだけを取り上げた児童の割合は54.4%であり、目的に応じて文章全体から必要な情報や中心となる語や文を適切に選び、内容を端的に説明することに課題が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約するためには、文章全体の内容を正確に把握した上で、目的に応じて必要な部分を選び、内容を端的にまとめることができるよう指導する必要があります。また、児童同士で互いの要約文を比較させ、目的に応じた情報が適切に組み込まれているか、端的にまとめられているかなどの観点から検討させたり、異なる目的に応じて書かれた要約文を比較させ、取り上げられている情報の違いに気付かせたりするなどして、目的に応じた要約の在り方について実感を伴って理解させることも大切です。

2 相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ【資料】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

※【資料】は略。実際の調査問題を参照してください。

四 相川さんは、【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめています。面ファスナーは、国際宇宙ステーションの中でどのように使われていますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中の使われ方について書くこと。
- 【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 五十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。



◇国語の学習に関連する質問における特色

教科の調査結果において、目的に応じて必要な情報を取り出したり、それらを結び付けたりすることに課題が見られたため、関連する質問項目の回答状況に着目しました。

また、読書に関する質問項目について、全国との比較や経年変化の結果から課題が見られました。

〔児童質問紙(49)〕「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由と関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしているか」

○肯定的な回答をした児童の割合は82.6%（全国比+11.0）でした。

〔児童質問紙(50)〕「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしているか」

○肯定的な回答をした児童の割合は84.8%（全国比+10.5）でした。

〔学校質問紙(53)〕「前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったか」

○肯定的な回答をした学校の割合は94.5%（全国比+ 4.9）でした。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・児童質問紙調査の結果では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていると肯定的に回答している児童の割合が高い傾向にある一方で、教科の調査では、目的に応じて文章を読み、記述で回答する問題の正答率は低くなっています。児童生徒が文章を読む目的を明確にもち、読み取った内容を吟味しながら思考したり表現したりする言語活動の充実に必要な取り組みがあります。
- ・国語の授業では、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり、表現を工夫して書いたりする学習経験を積み重ねており、全ての教科等の学習の基盤となる言語能力の向上につなげようとしている学校の割合が高くなっています。

〔児童質問紙(21)〕「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」

- 「30分以上」と回答した児童の割合は36.7%（全国比－ 0.7）で全国平均を下回っており、平成31年度（令和元年度）の調査における同じ質問に対する児童の割合42.7%より6ポイント下回っています。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・日常的に読書に親しむ態度を育むとともに、読書が、必要な知識や情報を得たり自分の考えを広げたりすることに役立つことに気付かせるよう指導することが必要です。国語の授業においては、読む目的を明確にさせ、比べ読みや多読などの目的に応じた効果的な読み方を工夫させることで、読書の意義に気付かせ、多様な種類の本に触れる機会の充実を図ることが大切です。

中学校第3学年 国語

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域等				問題形式		
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語 文化と国語の 特質に関する 事項	選択式	短答式	記述式
本県	68	82.4	61.1	52.2	78.6	67.1	77.2	60.6
全国	64.6	(+2.6)	(+4.0)	(+3.7)	(+3.5)	(+3.2)	(+2.8)	(+4.6)

概要

- 平均正答率は、全ての問題で全国平均を上回っています。
- 「書くこと」の平均正答率は4ポイント以上、全国平均を上回っています。

中学校第3学年 国語 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1ー]

- 話し合いの方向を転換する役割。
- 参加者の発言の要点を確認する役割。
- 参加者の発言の不足を指摘する役割。
- 話し合いの進行の仕方を提案する役割。

※【資料】、「話し合いの一部」は略。実際の調査問題を参照してください。

1 梅山市の中学校では、各校の代表が参加し、地域清掃活動についてテレビ会議を行っています。この会議の司会は、第一中学校の本田さんです。次は、各校の代表に配られた【資料】と、【資料】にある「③ 質疑応答」での【話し合いの一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。
(【話し合いの一部】の①から⑥は、発言の順序を表します。)

○ 成 果

話し合いにおける司会者の発言の役割を捉える問題の正答率は、93.3%(全国比 +3.6)でした。

◇設問ごとの顕著な例 [2二]

○ 成 果

意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く問題の正答率は、78.6%（全国比+ 4.1）でした。

2 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（1から4は、段落の番号を表します。）

※【意見文の下書き】は略。実際の調査問題を参照してください。

二 山田さんが書いた【意見文の下書き】の構成にはどのような工夫がありますか。複数の段落に着目して、あなたの考えを書きなさい。その際、1、2などの段落の番号を示しながら書くこと。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

◇設問ごとの顕著な例 [4四]

○ 成 果

事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く問題の正答率は、76.5%（全国比+ 4.6）でした。

・ 持ち物と服装について
・ 写真撮影の許可について

〈確認事項〉

宛先: △△△△@△△△, △△. jp
件名: Re: Re: 焼き物作りの体験について

2021/05/14

ふるさと焼き物館 前田 花子 様

第一中学校の青木です。ご返信くださりありがとうございます。
希望のコースと人数ですが、Aコース2名、Bコース2名でお願いいたします。当日は開始時刻の10分前に行く予定です。

なお,

第一中学校 青木 太郎

4 総合的な学習の時間で、地元の伝統工芸である「焼き物」について調べている青木さんのグループは、「ふるさと焼き物館」で焼き物作りの体験をしたいと考え、担当者とメールのやりとりをしています。次は、青木さんが送信した【二回目のメール】、【担当者からの返信メール】、青木さんが送信する【二回目のメールの下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

※青木さんが送信した【一回目のメール】、【担当者からの返信メール】は略。実際の調査問題を参照してください。

四 青木さんは、【二回目のメールの下書き】の 部分に、事前に確かめておきたいこととして、次の〈確認事項〉について書くようとしています。あなたならどのように書きますか。書き出しの「なお、」に続けて、相手に失礼のないように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

青木さんが送信する【二回目のメールの下書き】

◇設問ごとの顕著な例 [2ー]

▲ 課 題

意見文の下書きを直した意図を捉える問題の正答率は、28.3%（全国比+3.5）でした。誤答のうち、【意見文の下書き】の②段落で述べた意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとしたという意図を捉えられていない解答の割合が35.1%であり、【意見文の下書き】に書き加えた㊸の具体例が、下書きのどの段落の記述と結びつくのかということや、読み手に向けてどのような効果を生むために書き加えたのかということ捉えることができていないと考えられます。

☆改善に向けた取組のポイント

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるよう指導することが必要です。例えば、誤字や脱字等の表記上の確認にとどまらず、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現が効果的に働いているかを確かめながら推敲する学習活動を設定することが考えられます。その際、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して読み直させ、これらの表現が、自分の考えを読み手に明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどの具体的な観点を基に検討させ、誤解のない表現やより効果的な表現を考えさせるようにすることも大切です。

2 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。①から④は、段落の番号を表します。

※【意見文の下書き】は略。実際の調査問題を参照してください。

- 一 山田さんは、【意見文の下書き】を読み返して、㊸と㊹のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。
- 1 ①段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。
 - 2 ②段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
 - 3 ③段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
 - ④ 直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
 - 5 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

◇設問ごとの顕著な例 [3四]

▲ 課 題

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題の正答率は、27.2%（全国比+6.7）でした。誤答のうち、自分の考えはもつことができているものの【文章の一部】から表現を適切に引用できていない解答の割合が44.1%であり、文章中の登場人物のものの見方や考え方が表れている叙述を捉え、引用することに課題が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要があります。その際、着目した叙述を明確にして自分の考えを表現させたり、同一の叙述に対する自分と他者の解釈の違いに着目させたりするなどして、自分の解釈を改めて振り返らせることで、自分の考えをより確かなものにできるようにすることが大切です。また、叙述を引用して自分の考えを書く際には、小学校第5学年及び第6学年の「B書くこと」の学習を振り返らせ、原文を正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にすることなどの既習事項を活用させるように指導することも大切です。

3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている【紹介】と、【文章の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

※【紹介】、【文章の一部】は略。実際の調査問題を参照してください。

- 四 【紹介】に「線部」様々に評価する」とありますが、【文章の一部】では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
- 条件1 【文章の一部】から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。
- 条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。

◇国語の学習に関連する質問における特色

言葉の特徴や使い方について理解したり、目的に応じて書いたり読んだりすることについて、生徒質問紙、学校質問紙ともに良好な状況が見られました。一方で、目的に応じてやりとりすることについては課題が見られました。

〔生徒質問紙(47)〕「国語の授業では、言葉の特徴や使い方について知識を理解したり使ったりしているか」

○肯定的な回答をした生徒の割合は89.9%（全国比+ 8.1）でした。

〔生徒質問紙(49)〕「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしているか」

○肯定的な回答をした生徒の割合は84.3%（全国比+9.7）でした。

〔生徒質問紙(50)〕「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしているか」

○肯定的な回答をした学校の割合は86.6%（全国比+9.6）でした。

〔学校質問紙(54)〕「前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったか」

○肯定的な回答をした学校の割合は98.2%（全国比+ 5.5）であり、そのうち「よく行った」と解答した学校の割合は42.2%（全国比+ 6.3）でした。

〔生徒質問紙(48)〕「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしているか」

○肯定的な回答をした生徒の割合は73.1%（全国比+11.8）でした。ただし、そのうち「当てはまる」と回答した生徒の割合は30.4%（全国比+ 7.7）にとどまっています。いずれの割合ともに全国比を大きく上回っていますが、国語の授業に対する他の質問項目と比較して、まだ改善の余地があると考えられます。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

目的に応じて、自分の考えを伝えるために積極的に話したり必要に応じて質問したりしようとする意識を一層高める指導の充実に努めることが大切です。例えば、目的に沿って、互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話し合いや議論、討論などの言語活動を設定するとともに、「A話すこと・聞くこと」の学習で身に付けた資質・能力を実際の言語活動の中で活用しながら話し合うように指導することなどが考えられます。

◆1 全国学力・学習状況調査「国語」における秋田県の子どもたちの特長

今年も、秋田県の子どもたちは、国語で全国トップクラスの成果を達成してくれました。秋田県の子どもたちの言語能力の高さ、前向きな学習姿勢が証明されました。これは、何と言っても**秋田県の先生方の国語の授業力の高さ**によるものです。

秋田県の子どもたちは、国語の**記述式設問の正答率が全国をより大きく上回りました**。問題文・設問をしっかりと読みながら、求められていることを適確に記述する力が高いことが、今回も証明されました。ふだんから読み取ったこと、考えたことを書く学習が当たり前に行われていること、試行錯誤しながらさまざまな自分の考えを表明することなどが授業で多く行われていることの成果だと思います。

また、設問の中身として秋田県の子どもたちが全国と比べて**特に正答率の高かったのは、推敲、要約、説得、引用という要素が重視される設問**です。小学校の国語問題中の設問3の二です。この「概要」の2頁でも紹介されていますが、「丸山さん」が「一人一人が責任をもってかたづけること」の重要性を説得的に述べる意見文の下書きを取り上げたものです。

その下書きを推敲する際に、その中に「西田さん」の「そうじ担当が」かたづけをすると掃除の「時間が足りなくなってしまう」という話を付け加えることを求める設問です。意見に「反対する意見と、その理由を書くこと」「【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書くこと」を求めるものですが、小学校6年生にとっては高いハードルの設問と言えます。秋田県の子どもの正答率は69.6%と全国平均より12.4ポイントも高くなっています。

これに答えるためには、まず推敲にある程度慣れていないといけません。それも説得力を高めるための推敲であることを認識していることが前提です。その上で、そのために西田さんの話のどこどこを引用するかを考える必要があります。つまりは要約の力です。そして、それを「理由」として引用しつつ、「意見」として掃除担当の人に任せるのではなく使った人がかたづけるべきということを述べる必要があります。

秋田県の国語では、**推敲の学習、自らの主張・意見を説得していく論説型の文章を読んだり書いたりする質の高い学習**が多く行われているのだと思います。また、**説得力を増すために具体事例を引用する学習、長い文章から核となる語句を抜き出す学習**なども行われているのだと推察されます。

中学校の国語でも、与えられた条件を意識しながら、文章の構成の特徴を述べたり、必要な情報を発信したりする設問で好結果を上げています。小学校・中学校をとおして秋田県では、上記以外の要素についても言語の力を重視した丁寧で質の高い国語の授業が広く行われているのだと思います。

そして、小中を通じて今回も秋田県の子どもたちの無回答率はたいへん低かった。国語の平均無回答率は、小学校で全国平均の約二分の一、中学校で全国平均の約三分の二です。秋田県の子どもたちが、学習に真摯に粘り強く取り組む姿勢がこういうところにも顕在化しているのだと思います。

◆2 児童・生徒質問紙で「当てはまる」と答えている子どもの多さには驚くばかり

秋田県の子どもたちの「児童・生徒質問紙」の結果にも驚かされます。国語の授業に関するものだけを取り上げても、めざましい結果を残してくれています。

まず「**国語の勉強は好きだ**」という質問および「**国語の勉強は大切だ**」に「当てはまる」と答えている子どもの割合が、全国で小学校1位、中学校2位です。「**国語の授業の内容はよく分かる**」に「当てはまる」と答えている子どもの割合は、全国で小学校2位、中学校1位です。日本では「学年が上がるごとに国語嫌いが増えていく」とよく言われますが、秋田県にはそれは全く当てはまらないようです。これは小学校・中学校の国語の授業の質が高いこと以外に原因は見つかりません。

この「概要」の4頁・8頁・20頁でも紹介されていますが、以下の質問に「当てはまる」と答えた子どもの割合が小学校・中学校ともに全国1位です。

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。

国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている。

国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている。

自分の考えを話す。質問する。根拠を明確にして書く。表現を工夫して書く。解釈して自分の考えを広げたり深めたりする。いずれも、今求められている高度な言語能力としての「言葉による見方・考え方」を育てることが、秋田県ではかなりの程度できていることを示していると思います。

◆3 秋田県の子どもたちの課題 — 文章の具体と抽象の対応関係を把握する力がまだ弱い

秋田県の子どもたちの国語の力についての課題です。

課題を挙げるとすると、**文章中の対応関係を把握する力、特に抽象的な記述と具体的な記述の対応を把握する力**です。それにかかわり**文章や作品の一語一文に丁寧にこだわる力**です。これらの力をもっと意識的に育てる必要があります。

小学校の国語で秋田県の子どもたちの正答率が低かった設問は、この「概要」3頁でも紹介されている2の四、「面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われている」かを説明することを求めるものです。本文の資料の「言葉や文を取り上げ」ながら「面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションの中での使われ方を書くこと」と条件が指定されています。秋田県の子どもの正答率は、34.0%（全国29.7%）です。

資料の中には「面ファスナーのよさ」とか「国際宇宙ステーションの中での使われ方」という言葉自体はありません。「よさ」と「使われ方」という抽象的な言葉に対応する具体的な記述を見つけ、適切に抜粋・引用することが必要となります。「よさ」に該当するのが「しっかりとくっつき簡単にはがせることができる面ファスナー」であり、「使われ方」に該当するのが（無重力状態のため）「物がうかびます。」「身の回りの全ての物が固定できるようになっている」です。

「よさ」「使い方」という抽象的な言葉に対応する具体的な本文の箇所を見つけだす力が必要です。抽象と具体の対応を理解する力、本文のどこにこそこだわればよいかを発見できる力です。

中学校の国語で秋田県の子どもたちの正答率が低かった設問は、この「概要」の7頁で紹介されている3の4です。猫の「『吾輩』は『黒』をどのように評価し、どのような接し方をして」いるか、また「あなたは、そのような『吾輩』の接し方をどう思うかを問うています。特に「『吾輩』は『黒』をどのように評価し」ているかは、「表現を引用」することを求めています。秋田県の子どもの正答率は、27.2%（全国20.5%）です。

一つ目の大きなハードルは、「『吾輩』は『黒』をどのように評価し」ているかの引用です。もちろん本文には「評価している」などという言葉は出てきません。その上、「吾輩」の「黒」への評価は、一カ所ではなく複数箇所に散らばっています。「剛腕と勇氣とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」といった肯定的な評価と同時に、「どこか足りないところがあって」「はなはだ御しやすい猫である」「無学の黒」など否定的な複数の評価があります。そのいずれでもいいとも言えますが、焦点が定まりにくいとも言えます。

また、「どのような接し方をして」いるかについても、「こういう接し方」などという言葉は本文中にはありません。それを自分で見つけることが求められます。この接し方も上記の否定的な評価に対応して複数箇所あります。

つまり、ここでも「どのように評価」「こういう接し方」という抽象的な要求に対応する本文の具体的な表現を、引用したり指摘したりしないといけないうです。**抽象と具体の対応を理解する力、本文のどこにこそこだわればよいかを発見する力**です。

そういう力を育てるためには、文章の文脈を理解しつつ**2カ所以上の記述の対応関係にこだわっていく学習**が必要です。その際に抽象的な記述と具体的な記述との対応関係を確認していくことが大切です。たとえばまとめて述べている部分とその具体例を述べている部分との対応関係などです。また、自分たちが読み取った**解釈が本文のどの言葉に基づくのかをはっきりと意識する学習**が求められます。読みとりや解釈は、それなりに抽象性を含みます。そのとき「自分たちはどの言葉・どの表現からそう解釈したのか」の具体を意識することです。

国語の授業では、特に授業後半で本文そっこのけで解釈の空中戦が行われることがあります。そういう授業を続けていると子どもたちに本文にこだわる力は育ちません。抽象性を含む読みとりや解釈が本文の具体と往還することも欠落してきます。これまで以上に本文の一語一文にこだわった授業を展開していきましょう。

◆4 目標・ねらいの具体性重視と批判的思考力を育てる授業

秋田県の国語の授業の質は、極めて高いと思います。特に「探究型授業」を生かして子どもたちの言語能力を確かに高めている授業が、県内各地で行われています。とはいえ、まだ課題がないわけではありません。これまで以上に探究型授業の精度を高めてほしいと考えます。

特に、その単元・その授業で子どもたちに**どういう言語の力をつけるかという目標・ねらいの具体性を、是非重視**してほしいと思います。まだ「主人公の心情の変化を読む」「効果的な表現に着目する」「わかりやすい表現で文章を書く」などの抽象的な目標・ねらいを目にすることがあります。これらの目標・ねらいだと具体的に本単元・本授業で、子どもたちに**どういう言語の力が身についていくのか**が見えてきません。いいかえると「言葉による見方・考え方」として何が育つのか曖昧ということです。たとえば「自らの主張を納得してもらうために、筆者がどのように事例選択を工夫しているかを発見する力を身につける」「山場（クライマックス）に着目し、その変化に向かって仕掛けられている展開部の伏線を見出す力を身につける」などの目標・ねらいだと、**どういう言語の力を育てるのか**が把握しやすくなると思います。

また、**批判的思考力を重視した授業**を、これまで以上に多く行ってほしいと思います。学習指導要領・国語では「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること」という教科内容が明記されました。小学校の国語教科書の学習頁では「筆者のどの部分に、共感・納得したり、疑問に思ったりしたか。」などの手引きが多く設定されています。中学校の国語教科書の学習頁では「『メロス』の行動や考え方について、共感できたところ・できなかったところを、理由とともにまとめてみよう。」という手引きが設定されています。にもかかわらず、実際の**国語の授業で文章や作品を批判的に捉え直すという授業は、まだまだ少ない**と思います。

批判的思考力を重視した授業は、世界的には既にスタンダードです。**批判的な読解力や批判的な表現力は、これからの世界を主体的に生きていく子どもたちにとって必須**のものです。

＊

秋田県教育、秋田県授業、秋田県国語のすごさを、最近改めて実感しています。ここまで紹介してきた以外にも秋田県教育の質の高さを示すデータはたくさんあります。たとえば児童・生徒質問紙で「当てはまる」と答えている子どもの割合が全国47都道府県中トップのものが、今紹介した以外にも数多くあります。「**将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」「いじめは、どんな理由があってもいけなことだと思う**」など、小学校・中学校ともに全国トップです。

授業、学級経営、学年経営、学校経営、共同研究はじめ、トップレベルの教育が秋田県で展開されているからこそその結果です。その**先進性をさらに磨きつつ、改善すべき点は専門職として厳しく変えていく**。それが教育先進県としての使命であると思います。

小学校第6学年 算数

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域					問題形式		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と 関係	D データの 活用	選択式	短答式	記述式
本県	72	68.1	57.0	77.5	75.7	79.0	77.0	76.6	58.8
全国	70.2	(+5.0)	(-0.9)	(+2.7)	(-0.2)	(+3.0)	(+1.0)	(+0.8)	(+5.8)

概要

- 「A数と計算」の領域において、5ポイント以上全国平均を上回っています。
- 「記述式」の問題形式において、5ポイント以上全国平均を上回っています。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。
- 「B図形」の領域において、全国平均をやや下回っています。

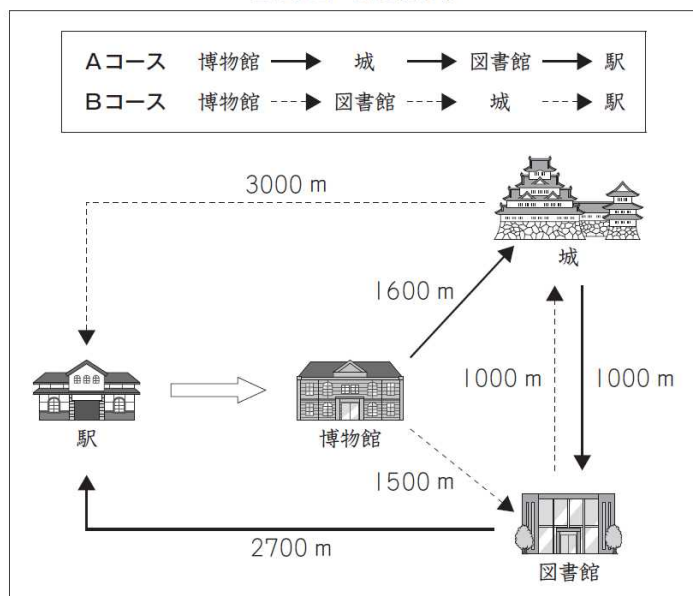
小学校第6学年 算数 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [1(1)]

- (1) たけるさんたちは、駅に集合してから博物館へ行きます。博物館の後のコースについては、下の2つのコースを考えました。

たけるさんたちは、道のりがBコースより短いAコースで行くことにしました。
Aコースの道のりは、Bコースの道のりより何m短いですか。
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

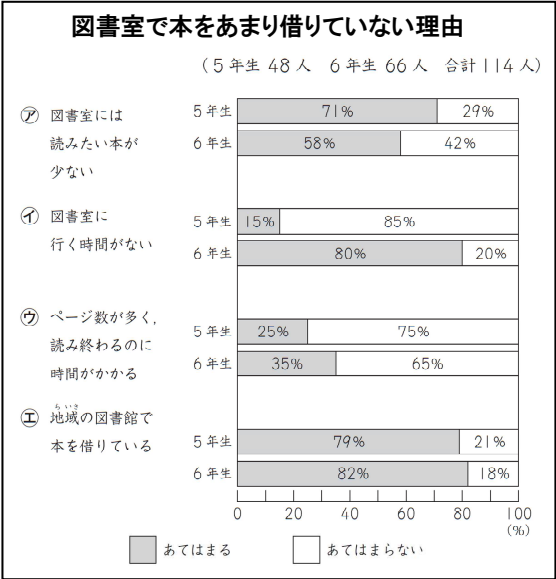
2つのコースと道のり



○ 成果

二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率は 69.7% (全国比+ 7.2) でした。

◇設問ごとの顕著な例 [3(4)]



ひよりさんたちは、左のグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。
そうたさんとあやのさんは、左のグラフの中の⑦から⑩までの4つの項目について、「あてはまる」と答えた人の割合に着目しました。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が同じくらいの項目があります。



5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合が大きくちがう項目もありますね

左のグラフについて、5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目はどれですか。また、その項目について、「あてはまる」と答えた5年生と6年生の割合はそれぞれ何%ですか。
項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書きましょう。

○ 成 果

帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の正答率は58.2%（全国比+ 6.2）でした。

◇設問ごとの顕著な例 [4(3)]

12mのテープと30mのテープもあります。
たくみさんたちは、12mは30mの何倍かについて考えています。



たくみ

$12 \div 30 = 0.4$ で、0.4 倍です。

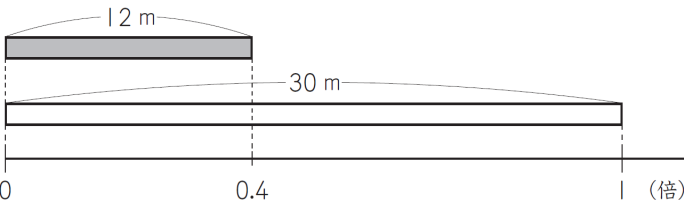


さくら

30を1としたとき、12mが本当に0.4にあたるのかな。

30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを、【ゆうまさんの説明】と同じように、0.1にあたる長さがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

※ 必要ならば、下の図を使って考えてもかまいません。



○ 成 果

小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題の正答率は60.5%（全国比+ 9.0）でした。

◇設問ごとの顕著な例 [1(3)]

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。

道のりと時間		
	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$
㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4 \dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。
下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊦のほうが速い。
- 2 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊧のほうが速い。
- 3 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦のほうが速い。
- 4 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧のほうが速い。

▲ 課 題

速さを求める除法の式と商の意味の理解を確かめる問題の正答率は53.1%（全国比－2.7）でした。示された除法の式の意味を捉えることはできていますが、求めた商の意味を捉えることに課題が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

求めた商の意味を理解して判断できるよう、除法の式が何を求めているのかを明確にした上で、求められた数値の大小でどのような判断ができるのかについて、日常の経験を想起しながら数直線や図などを用いて説明する活動を設定することが大切です。

◇設問ごとの顕著な例 [2(1)]

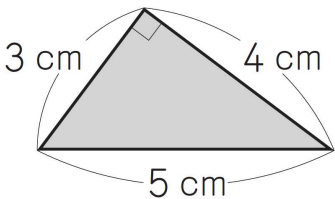


図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。求める式と答えを書きましょう。

▲ 課 題

三角形の面積の求め方についての理解を確かめる問題の正答率は52.2%（全国比－2.9）でした。図形に示された全ての辺の長さを用いて立式してしまうなど、公式を用いるために必要な情報を選び出すことができていない誤答が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

図形の面積を求める際に必要な情報を根拠をもって選び出すことができるよう、不要な長さを示した図形や、水平な辺を底辺とすることができない図形を意図的に提示することが考えられます。また、求積のために必要な情報を選び出すだけでなく、選び出した理由について、図形と求積公式を関連付けながら説明する活動を設定することが大切です。

小学校第6学年 算数 質問紙調査の結果から

◇算数の学習に関連する質問における特色

算数の学習と実生活の関連やノートの書き方に関する質問項目について、生徒質問紙調査、学校質問紙調査ともに良好な傾向が見られました。多くの質問で肯定的な回答の割合が全国平均を上回っていますが、教科調査の回答時間が十分だったかを問う質問に対して肯定的な回答が全国平均を下回りました。

〔児童質問紙(56)〕「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか」

○肯定的な回答をした児童の割合は83.8%（全国比＋9.9）でした。

〔学校質問紙(57)〕「算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」

○肯定的な回答をした学校の割合は90.6%（全国比＋8.4）でした。

〔児童質問紙(59)〕「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」

○「書いている」と回答をした児童の割合は75.1%（全国比＋9.1）でした。

〔学校質問紙(60)〕「算数の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったか」

○「よく行った」と回答をした学校の割合は59.7%（全国比＋20.5）でした。

〔児童質問紙(69)〕「解答時間は十分でしたか（算数）」

●肯定的な回答をした児童の割合は77.3%（全国比－4.4）でした。児童一人一人が見通しをもって自ら問題解決できるよう、更なる授業の工夫改善が望まれます。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

児童が数学的活動を自ら遂行することができるよう、児童の実態に応じて教師の関わりの程度を調整し、児童一人一人が見通しをもって問題解決に臨んだり、自分の考えをもって学び合ったりできるようにする必要があります。また、働かせた数学的な見方・考え方や問題解決の過程を振り返る活動を取り入れるとともに、児童が気付いた見方・考え方のよさを教師が価値付けることで、次の学習に生かすことができるようにすることが大切です。

中学校第3学年 数学

◇平均正答率

()内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式
本県	60	68.1	53.8	61.8	56.6	55.9	73.9	38.3
全国	57.2	(+3.2)	(+2.4)	(+5.4)	(+2.8)	(+3.5)	(+3.4)	(+3.3)

概要

○平均正答率は、ほぼ全ての問題において、全国平均を上回っています。(16問中15問、1問は同率)

○「関数」の領域において、5ポイント以上全国平均を上回っています。

○無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っています。

中学校第3学年 数学 調査結果から見られた成果

◇設問ごとの顕著な例 [4]

長さが1mの棒を地面に対して垂直に立てたときにできる影の長さについて、ある日の午前8時から1時間おきに、午後4時まで調べました。



次の表は、午前8時から経過した時間とそれに対応する影の長さを表しています。

午前8時から経過した時間と影の長さ

経過した時間(時間)	0	1	2	3	4	5	6	7	8
影の長さ(cm)	190	124	96	80	79	96	130	193	350

このとき、午前8時から経過した時間と影の長さについて、「経過した時間を決めると、それにもなって影の長さがただ1つ決まる」という関係があります。

下線部を、次のように表すとき、①と②に当てはまる言葉を書きなさい。

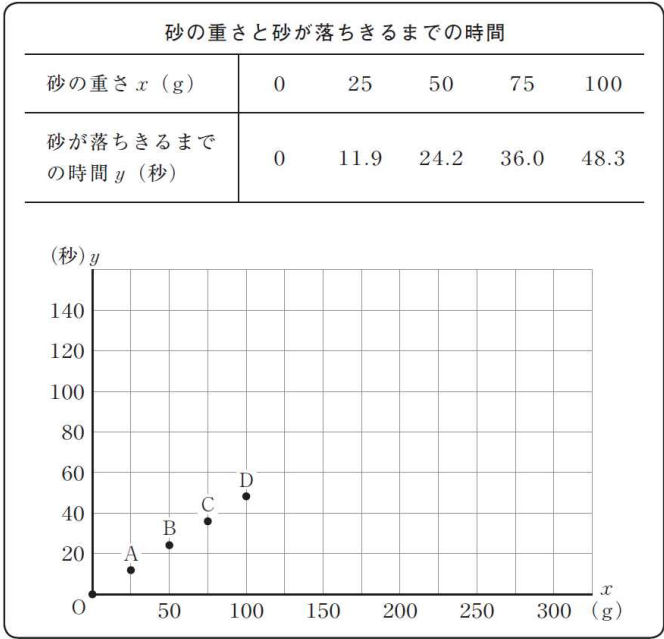
①は②の関数である。

○ 成 果

関数の意味の理解を確かめる問題の正答率は57.8%
(全国比+ 9.8)でした。

◇設問ごとの顕著な例 [7(1)]

調べた結果



調べた結果のグラフにおいて、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点はどれですか。点Aから点Dまでの中から記号を1つ書きなさい。

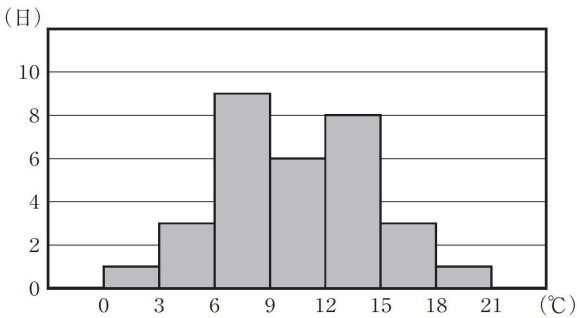
○ 成 果

与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題の正答率は95.7%（全国比+ 2.2）でした。

◇設問ごとの顕著な例 [8(1)]

桃花さんは、前ページの調べたことの表から、気温差が大きい日や小さい日があることが気になり、気温差の分布のようすを、次のヒストグラムにまとめました。例えば、気温差が3℃以上6℃未満の日が3日あったことを表しています。

気温差のヒストグラム



気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を求めなさい。

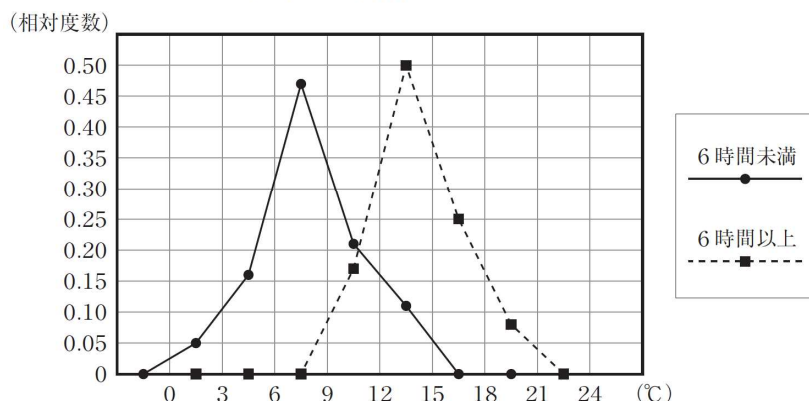
○ 成 果

ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題の正答率は87.2%（全国比+ 4.2）でした。

◇設問ごとの顕著な例 [8(3)]

桃花さんは、前ページの気温差の度数分布表をもとに、横軸を気温差、縦軸を相対度数として度数分布多角形（度数折れ線）に表しました。

気温差の度数分布多角形



気温差の度数分布多角形から、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、気温差の度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

▲ 課題

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は13.4%（全国比+ 2.3）でした。データの全体的な傾向を捉えたり、分析したりすることに引き続き課題が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する場面を設定することが大切です。その際、見いだした分布の特徴から結論をいうためにふさわしい根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について説明する活動を取り入れることが考えられます。

◇設問ごとの顕著な例 [9(3)]

図 7

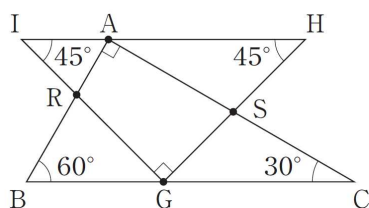
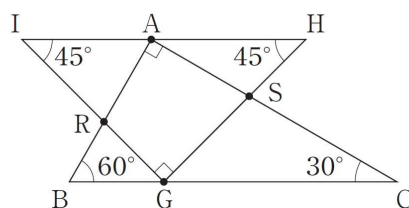


図 8



二人は、図 7、図 8 で、四角形 ARGS が長方形にならないことから、四角形 ARGS がどんな四角形になるか話し合っています。

直輝さん「 $\triangle GHI$ を動かすと四角形 ARGS の 4 つの辺の長さはそれぞれ長くなったり短くなったりするよ。角の大きさはどうなるかな。」
由衣さん「 $\angle RAS$ と $\angle RGS$ の大きさはそれぞれ 90° で変わらないね。 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさはどうかな。」

$\triangle GHI$ を動かしても、四角形 ARGS の $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の和はいつでも 180° になります。このほかに、 $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ の大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

▲ 課題

ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する問題の正答率は30.0%（全国比+ 1.2）でした。図形の性質を見いだすことに課題が見られます。

☆改善に向けた取組のポイント

ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する場面を設定する必要があります。また、見いだした性質を基にさらにいえることはないか考えたり、見いだした複数の性質を関連付けて考えたりする活動を取り入れることが大切です。

◇数学の学習に関連する質問における特色

生徒質問紙調査、学校質問紙調査ともに、数学の学習に関するすべての質問項目で、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っていることから、各学校における学習指導の充実とその成果が見られます。しかし、肯定的な回答の割合がまだ十分とはいえない質問項目や、経年比較から課題が見られる質問項目も見られました。

〔生徒質問紙(53)〕「数学の勉強は大切だと思う」

○肯定的な回答をした生徒の割合は89.8%（全国比+ 5.7）でした。

〔生徒質問紙(59)〕「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いているか」

○肯定的な回答をした生徒の割合は94.2%（全国比+ 7.6）でした。

〔学校質問紙(58)〕「前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったか」

○肯定的な回答をした学校の割合は93.6%（全国比+17.4）でした。

〔生徒質問紙(54)〕「数学の授業の内容はよく分かる」

●肯定的な回答をした生徒の割合は79.2%（全国比+ 4.6）であり、平成30年度調査が76.9%、平成31年度調査が78.5%と、改善が継続的に図られています。しかし、まだ20.8%の生徒が否定的な回答をしている現状があることから、一人一人の生徒が「分かった」「できた」を実感できる授業を目指し、引き続き授業改善に取り組む必要があると考えられます。

〔学校質問紙(56)〕「前年度までに、発展的な学習の指導を行ったか」

●肯定的な回答をした学校の割合は77.9%（全国比+2.1）でした。平成31年度調査(85.2%)では平成30年度調査(67.2%)より大幅に改善していましたが、今年度は前回調査よりも7.3%低くなったことから、発展的な学習の充実を図る必要があると考えられます。

☆課題の改善と指導の充実に向けた取組のポイント

- ・授業において、自力解決等の状況から、生徒が既に解決できていることや困っていることなどを見取り、発問を精選したり、学び合いにおいて取り上げる時間に軽重を付けたりすることで、生徒一人一人が「分かった」「できた」を実感できるようにすることが大切です。
- ・生徒の実態に応じて、発展的な学習の充実を図ることが大切です。例えば、与えられた条件の下で図形の性質を見いだす活動において、一つの性質を見いだした生徒が複数の性質を見いだせるようにすることや、複数の性質を見いだした生徒がそれらに関連付けて考えたり、条件を変えて考えたりすることなど、生徒一人一人が学びを深められるような授業の構想、展開を重視する必要があります。

算数・数学は令和3年度も全体的に良好でした。小学校 [2(1)] 「直角三角形の求積」問題（秋田県正答率52.2%），中学校 [9(3)] 「三角定規を重ねてできる四角形の角」問題（秋田県正答率30.0%）の結果は，**新たな探究型授業を目指すためのメッセージとして注目しましょう。**

「直角三角形の求積」問題

図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。求める式と答えを書きましょう。

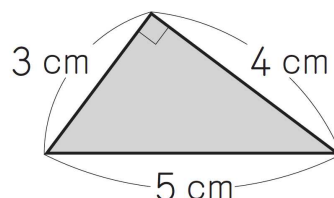


図1

「三角定規を重ねてできる四角形の角」問題

$\triangle GHI$ を動かしても，四角形 $ARGS$ の $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の和はいつでも 180° になります。このほかに， $\angle ARG$ ， $\angle ASG$ の大きさについて，いつでもいえることを書きなさい。

図7

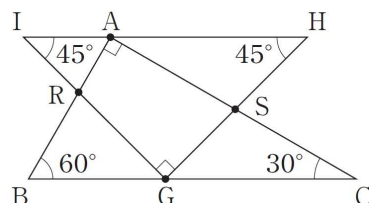
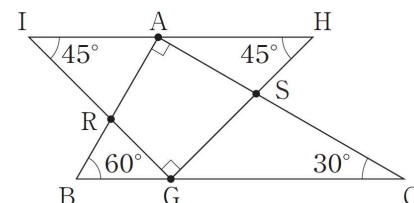


図8



「直角三角形の求積」問題では，斜辺が底辺になっていることに戸惑った児童が多いでしょう。また，「三角定規を重ねてできる四角形の角」問題でも，三角定規の移動により $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさが変わると捉えた生徒が多いように思います。図形の見方・考え方を深めるためには，異なる視点からの考察が必要なことを意味しています。

授業では，このように視点を変える問題に取り組む機会を増やしていきたいのですが，**教師が次の問題を出す前に，児童生徒に「この後，どんなことができるか」と尋ね，発展的に考えることを促すようにしたいです。**児童生徒の意識が働く探究型授業へと，私たちの指導・支援が発展していくきっかけになることを期待します。

発展的に考えることを促す新たな探究型授業を目指そう

質問紙調査

全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は実施されなかったため、2年ぶりの実施となりました。

質問紙調査の結果には、本県の児童生徒の生活習慣、学習習慣等の状況や、各学校における教育活動の取組が、これまでと同様に良好な状況であることが表れています。

また、令和3年度は、令和2年度の小学校に続き、中学校で新学習指導要領が全面実施となりました。学習指導要領改訂における授業改善の視点である「主体的・対話的で深い学び」に関する質問項目について本県の回答状況を分析すると、児童生徒質問紙からは、学びの広がりや深まりを実感する児童生徒の姿が見られました。

一方、学校質問紙の回答状況からは、いくつかの質問項目においては、肯定的な回答の割合が全国平均を下回る傾向が見られました。

「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実に向け、授業改善に向けた取組のポイントを紹介します。

児童生徒質問紙調査の結果から見られた成果

児童生徒質問紙調査において、①～④の4段階の尺度で回答する質問53項目について、①「当てはまる」「そうしている」等の回答に着目して、本県と全国の傾向を比較してみました。その結果、本県の児童生徒の①と回答した割合が全国で最も高かった質問項目は、小学校で36項目、中学校で31項目見られました。ここでは、それらのうちから代表的な項目を紹介します。

教科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

①「当てはまる」等と回答した割合が小・中ともに全国で最も高かった項目

質 問 事 項	秋田小	全国小	秋田中	全国中
	全国との差		全国との差	
・国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。	48.9	38.3	46.6	35.5
	+10.6		+11.1	
・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか。	32.2	25.4	30.4	22.7
	+6.8		+7.7	
・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。	36.3	26.3	37.9	28.6
	+10.0		+9.3	
・国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしていますか。	46.9	33.8	42.3	32.2
	+13.1		+10.1	
・算数・数学の勉強は大切だと思いますか。	82.7	76.2	59.0	49.3
	+6.5		+9.7	
・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	81.2	72.8	49.3	37.8
	+8.4		+11.5	
・算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	51.7	39.3	27.9	19.7
	+12.4		+8.2	
・算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	57.7	49.4	44.9	38.3
	+8.3		+6.6	
・算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	62.8	54.0	55.1	45.6
	+8.8		+9.5	
・算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	75.1	66.0	70.5	58.0
	+9.1		+12.5	
・英語の勉強は好きですか。	44.8	38.2	33.6	28.7
	+6.6		+4.9	
・前学年までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。	49.4	39.2	42.9	30.5
	+10.2		+12.4	

児童生徒質問紙調査の結果から見られた成果

挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等

①「当てはまる」等と回答した割合が小・中ともに全国で最も高かった項目

質 問 事 項	秋田小	全国小	秋田中	全国中
	全国との差		全国との差	
・ 将来の夢や目標を持っていますか。	70.1	60.2	49.3	40.5
	+9.9		+8.8	
◎自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。	46.8	35.9	45.2	34.7
	+10.9		+10.5	
・ 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。	33.1	24.4	26.6	20.0
	+8.7		+6.6	
・ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	89.7	84.1	87.1	81.4
	+5.6		+5.7	
・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	83.6	75.4	82.6	74.3
	+8.2		+8.3	
◎自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	34.9	26.6	36.1	29.3
	+8.3		+6.8	

◎は令和3年度新設の質問事項

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①「当てはまる」等と回答した割合が小・中ともに全国で最も高かった項目

質 問 事 項	秋田小	全国小	秋田中	全国中
	全国との差		全国との差	
◎前学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか。	36.9	23.8	31.0	17.9
	+13.1		+13.1	
◎前学年までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	53.3	39.5	33.7	23.5
	+13.8		+10.2	
・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	43.7	33.0	46.5	33.9
	+10.7		+12.6	
◎学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	46.2	32.6	35.8	26.3
	+13.6		+9.5	

◎は令和3年度新設の質問事項

これらの結果から、本県の各学校の取組が、児童生徒の豊かな人間性を育むことや、主体的・対話的で深い学びの実現につながっている状況が見られます。

また、今年度新設された質問項目には、令和3年度中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」で示された内容も含まれています。本県では、これらの項目についても、「当てはまる」等と回答した割合が全国で最も高い項目が多く見られます。

ICTを活用した学習状況

調査時のICT機器の活用頻度については、小・中学生ともに全国を下回っていましたが、ほとんどの児童生徒が学習の中でICTが役立つと考えていることがうかがえます。

児童生徒質問紙調査

質 問 事 項		小 学 校		中 学 校	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。①ほぼ毎日 ②週1回以上	①	5.7	－ 4.3	5.7	－ 4.0
	①+②	29.3	－ 9.7	29.4	－ 5.4
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。①役に立つと思う ②どちらかといえば、役に立つと思う	①	74.9	＋ 8.8	70.6	＋10.2
	①+②	96.3	＋ 1.8	96.0	＋ 2.8

学校質問紙調査

質 問 事 項		小 学 校		中 学 校	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができていますか。①よくできている ②できている	①	18.8	－17.1	22.9	－12.4
	①+②	82.9	－ 7.5	81.6	－ 7.0
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。①ある ②どちらかといえば、ある	①	19.3	－15.6	21.1	－10.5
	①+②	74.5	－10.3	67.0	－11.4
次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。（・教職員と児童生徒がやりとりする場面）①よく活用している ②どちらかといえば、活用している	①	1.7	－ 8.9	0.9	－10.3
	①+②	25.5	－19.2	21.1	－20.4
次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。（・児童生徒同士がやりとりする場面）①よく活用している ②どちらかといえば、活用している	①	0.6	－ 4.6	1.8	－ 3.7
	①+②	15.5	－14.6	16.5	－ 9.3



調査時と比較して自校のICT活用状況はどのように変化しているでしょうか。

職員研修等の機会に教員アンケート調査を実施するなど御活用ください。

各教員への質問		よく活用している	どちらかといえば、活用している	あまり活用していない	全く活用していない
次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。 ・教職員と児童生徒がやりとりする場面	現在	人	人	人	人
	全国	小10.6% / 中11.2%	小34.1% / 中30.3%	小41.0% / 中41.2%	小14.2% / 中17.2%
次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。 ・児童生徒同士がやりとりする場面	現在	人	人	人	人
	全国	小 5.2% / 中 5.5%	小24.9% / 中20.3%	小48.7% / 中45.8%	小21.1% / 中28.2%
次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。 ・児童生徒が1人で活用する場面	現在	人	人	人	人
	全国	小25.4% / 中19.8%	小49.2% / 中42.8%	小20.6% / 中29.6%	小 4.6% / 中 7.7%
学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童生徒の状況に応じた指導に活用していますか。	現在	人	人	人	人
	全国	小 7.0% / 中 6.1%	小36.9% / 中33.0%	小46.4% / 中49.2%	小 9.6% / 中11.6%

下段は調査時の全国の回答率

ICTを活用した授業改善について知りたいときは…

県教育委員会では、令和3年度より、ICTを活用した授業改善支援事業を立ち上げ、各学校の取組を支援しています。

詳しくはWebページをご覧ください。

https://common3.pref.akita.lg.jp/manabi/to_teachers/ict



主体的・対話的で深い学びの更なる充実に向けて

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する本県の実施状況について、児童生徒質問紙からは良好な傾向が見られる一方で、学校質問紙調査への回答状況からは、いくつかの質問項目において、本県における肯定的な回答の割合が全国平均を下回っている状況が見られました。

学校質問紙調査

質 問 事 項		小 学 校		中 学 校	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。 ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う	①	11.0	- 5.9	22.9	+ 3.9
	①+②	85.0	+ 2.6	86.2	- 0.4
調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。 ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う	①	9.9	- 3.1	14.7	- 3.2
	①+②	79.5	+ 3.7	79.8	- 3.8



これらの回答状況から、本県においては、各学校が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組を推進し、児童生徒はその効果を実感しているものの、対話を通して児童生徒の学びを深めることについては、まだ十分ではないと捉えている学校が一定数あることが分かります。

授業改善に向けた取組のポイント

今年度前半期における県教育委員会の指導主事による学校訪問等で見られた授業の状況を基に、主体的・対話的で深い学びを更に充実させるための授業改善に向けた取組のポイントを、秋田の「探究型授業」のプロセスに沿って紹介します。

授業から
見られた状況

見通しをもつ場面で、見通しをもった児童生徒が話し過ぎたり、教師が想定どおりの見通しを与え過ぎてしまったりすることで、児童生徒一人一人が自分の考えをもつことが十分できていないことがある。

秋田の「探究型授業」の
基本プロセス

学習の見通し
をもつ

自分の考えを
もつ

授業改善に向けた取組のポイント

一人一人が自分の考えをもつことができるように

- ◎魅力的な課題設定や導入の手立ての工夫で、児童生徒が自分事として「考えてみたい」と思えるようにしましょう。
- ◎見通しをもつ場面で、見通しをもつことができない児童生徒がいないようにするとともに、見通しを与えずぎで、自由な思考を妨げることがないようにすることも必要です。
- ◎学級全体で見通しを共有する前に、個人で見通しをもつ活動を短時間取り入れるなどの工夫も考えられます。

児童生徒の考えを基に話し合いを

- ◎自分の考えをもつ場面では、「どのような考えがあるか」だけでなく、「どのようなことで困っているか」など児童生徒の考えや状況を丁寧に見取り、話し合う場面につなげられるようにしましょう。
- ◎見取りを基に、時には教師の想定した授業構想を修正することも必要です。

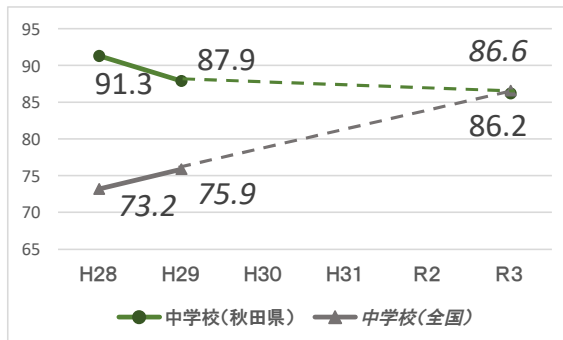
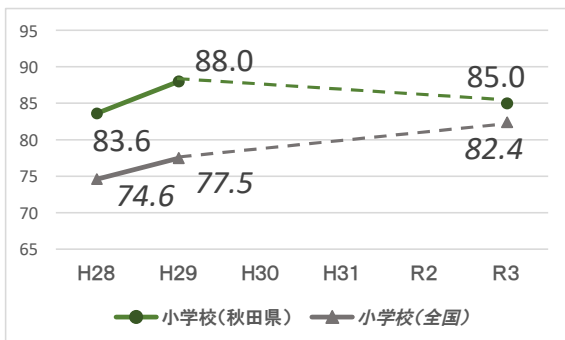
「探究型授業」の基本プロセスを基にしながら、本時のねらいや、単元などの内容や時間のまとまりにおける本時の位置付けに応じて、各場面の取扱いに軽重を付けることも大切です。

肯定的な回答の割合が全国平均を下回った質問項目について、経年変化（①+②の割合）を見ると、全国で増加傾向にあるのに対し、本県では減少傾向にあることがわかります。

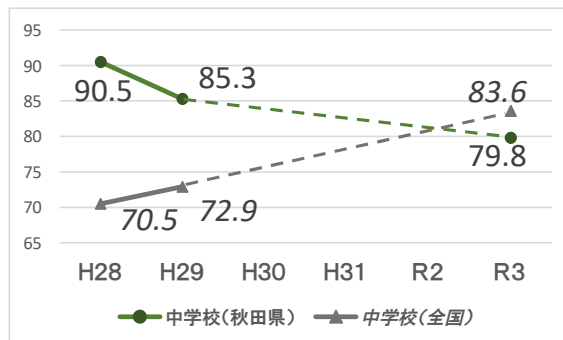
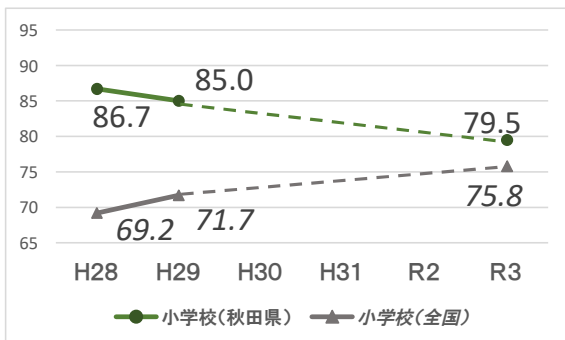
学校質問紙調査

①+②の割合の経年変化

自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか



自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



H30, 31年度調査では設問がありませんでした。R2年度は調査が実施されませんでした。

グループや学級で話し合う場面で、課題を解決できている一部の児童生徒の考えだけで話し合いが進められ、他の児童生徒は聞くだけの時間になってしまうことがある。

探究型授業の基本プロセスに沿おうとするあまり、話し合いに十分な時間が確保できていなかったり、話し合いの目的が焦点化されていなかったりしていることがある。

学習の内容や方法を振り返る場面で、「何ができるようになったか」が明らかにならず、児童生徒が「分かった」「できた」を実感できていないことがある。

集団(ペアやグループ、学級)で話し合う

学習の内容や方法を振り返る

集団で話し合う場面で、考えを深めたり広げたりする手立て(例)

◎本時で児童生徒が働かせる
見方・考え方の明確化

◎考えをもつ場面での見取りを生かした、問題解決型の話合いの充実
・困っている児童生徒の考えから話し合いをスタートする
・あえて誤答を紹介し、原因や解決策を話し合う

◎児童生徒同士、児童生徒と教師がやりとりするためのICT機器の活用

◎考えを整理・分類するための思考ツールの活用

◎話し合いを焦点化する発問の例

「分かっていることは何ですか」
「分からないことは何ですか」
「なぜそうなるのですか」
「他の考え方はありますか」
「似ているところはどこですか」
「違うところはどこですか」
「ここから言えることは」
「別の視点・立場から考えてみると」
「条件を変えて考えてみると」
「〇〇さんはどのように考えたのでしょうか」
「〇〇さんの考えのよいところはどこですか」

「分かった」「できた」を実感できる振り返りに

◎本時の学習を通して「何ができるようになったか」を自覚できるようにすることが必要です。
◎本時で働かせた見方・考え方のよさを振り返らせるとともに、「〇〇さんの△△の考え方がよかったね」など、児童生徒が気付いたよさを教師が価値付け、児童生徒一人一人がよさに気付くことができるようにすることで、「次の学習でも生かせよう」「もっと考えてみたい」という、学びのスパイラルが生まれるようにしたいものです。

感染症拡大の影響が懸念されていましたが、令和3年度全国学力・学習状況調査結果から新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、身に付けるべき資質・能力の育成が着実になされていることを確認できました。児童生徒の学びに日々最善を尽くされてきた教職員の皆様に感謝申し上げます。

質 問 事 項			①+②	
			小学校	中学校
対話的な学び	児童生徒	前学年までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。 ①伝えていた ②どちらかといえば、伝えていた	87.1%	88.5%
	学校	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。 ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う	85.0%	86.2%
深い学び	児童生徒	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 ①当てはまる ②どちらかといえば、当てはまる	86.7%	87.2%
	学校	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。 ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う	79.5%	79.8%

上の表は、児童生徒の回答に比べ、学校の回答が下回っています。特に、深い学びに関する質問は80%を下回っています。児童生徒は肯定的に回答していますが、より一層深い学びを期待しているのだと、解釈しました。

自分の考えを深めたり、広げたりするためには、「自分の考えをもつ」ことが大切です。そのためには、メール文の下書きを書いたり（中学校国語）、速さを求める式の意味を考えたり（小学校算数）することに加え、「何に注目する？」「どこが難しい？」「どのように考えようか？」と、解決過程において働く児童生徒の意識を可視化し、価値付けすることも重要です。深い学びの実現に向けて、より自律的な学習が展開するよう、指導から支援に転じていくことが大切です。

児童生徒の意識を可視化し、価値付けよう

令和3年度秋田県
全国学力・学習状況調査の
活用に係る検証改善委員会

委員一覧

※敬称略
職名は令和3年11月現在

佐藤 学	秋田大学教育文化学部教授
阿部 昇	秋田大学大学院教育学研究科特別教授
和田 渉	義務教育課長
中井 淳	義務教育課主幹兼学力向上推進班長
長崎 美由紀	義務教育課副主幹
中嶋 舞衣子	北教育事務所指導主事
中田 康 広	北教育事務所鹿角出張所指導主事
石井 和 史	中央教育事務所指導主事
山口 晃 正	南教育事務所仙北出張所指導主事
岡本 和 範	義務教育課指導主事
真崎 敦 史	義務教育課指導主事
望月 直 哉	義務教育課指導主事
矢吹 敦	義務教育課指導主事
吉田 茂 樹	義務教育課指導主事